要領様式第２号

出張報告届

令和　２年11月　９日

吹田市議会議長様

会　派　名　民主・立憲フォーラム

出張者氏名　西岡　友和　㊞

㊞

㊞

㊞

㊞

㊞

㊞

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出　張　先	倉敷アイビースクエア		
期　　間	令和２年10月29日　から10月30日まで２日間		
出張の成果	別紙のとおり		
備　　考	中核市サミット2020　in倉敷 ～地域を創り、地域に生きる～中核市が育む日本の力～ 10/29(木)　基調講演　演題： 『中核市が頻発・激甚化する災害から 「生き抜く」ために』 パネルディスカッション 第１会場：『災害から「生き抜く」ためのまちづくり』 10/30(金)　行政視察『コロナに「打ち勝つ」観光文化のまちづくり』 倉敷美観地区コース	認印	会派代表者

吹田市議会事務局
'02.11.09
受付

全国中核市サミット 2020in 倉敷

倉敷市で開催された全国中核市サミットについて、今回は防災をテーマに開催された。倉敷市は平成30年の西日本豪雨により、40名以上の犠牲者をだしている。この事を教訓に、先進的な防災体制を整えている。東京大学の片田教授の講演では、中核市が頻発する災害から生き抜くためには、それぞれの市の地政学に合わせた防災体制を整える事が必要であると指摘があった。

また、東日本大震災では、避難所に逃げ込んだ母親が、子どもが避難所にいない事を気にして自宅まで探しにゆき、そのまま帰ってこなかったという事例がいくつもあったとの事である。実際には子ども達は、学校、または自身で別の避難所に逃げていたにも関わらず、両親は探しに戻ってしまったと。いつ発生するかわからない災害について、各家庭、各個人でしっかりと規則をきめている事が必要だとの事。

自治体では、災害時のマニュアルに『避難していただく』などの文言が使われる。これは大きな間違いで、正しくは『自らの命は自分で守れ』と言うべきとの事。行政は市民全員の命は守れない。自分を守るのは自分自身。この考え方が必要だとの事は深く心に残った。

翌日は、コロナ対策を行いながら、観光産業をささえる取り組みにつき、学んだ。倉敷市では観光を促進することに大きな力をいれている。美観地区では、電柱を全て取り払い、地下から供給している。また、古くからある商店街にかかるアーケードをすべて取り払い、道や景観を舗装し、人工的に古い町並みを作っているのだが、全くそのような気配を感じさせない。政府の補助金を上手く利用し、地域のアイデアを取り入れて新しい観光を形成している。

中核市としての独自性、文化や歴史を誇る街として、確固たる方針とあり方を明確にしめしているあたりに、本市との違いを感じた。今年度から中核市となった吹田市は、新型コロナウイルス感染症の影響で、各種のイベントなどがすべて中止となり、市民の皆様に中核市としての方向性などを示す機会を失った。多くの市民の皆様は中核市となった事をご存じないかもしれない。中核市としての独自性、吹田市としてのまちづくりを進めるにあたり、全国に６０ある中核市が連携し、切磋琢磨していくことが重要である。